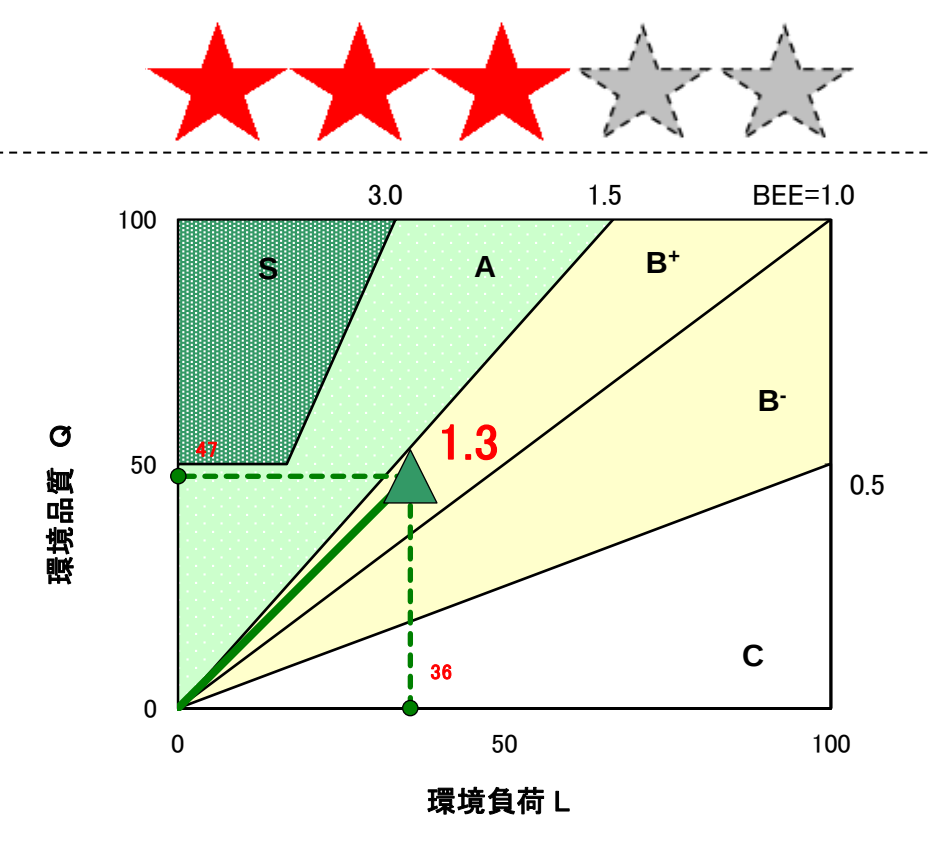


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)九品寺2丁目マンション	階数	地上10F		ください。
建設地	熊本市中央区九品寺2丁目4番39、4	構造	RC造		
用途地域	商業地域、近隣商業地域、第2種住居地域	平均居住人員	86 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年7月4日		
敷地面積	1,160 m ²	作成者	(03896-23)今西良一		
建築面積	319 m ²	確認日	2019年7月8日		
延床面積	2,250 m ²	確認者	大和ハウス工業(株)熊本支社		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



BEE = 1.3

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

77%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

	評価点
	78

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

評価点

93.7

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

68.7

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

67.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

66.7

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

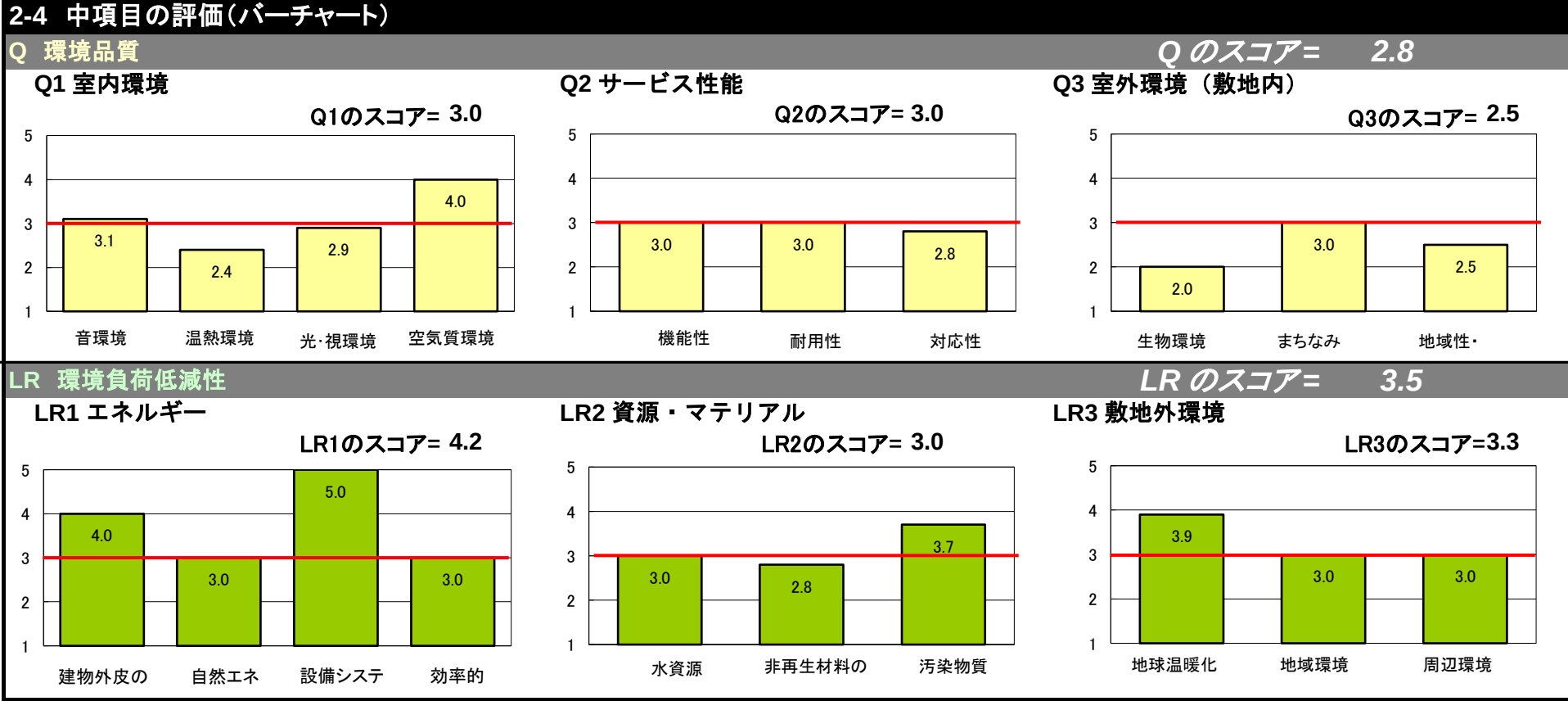
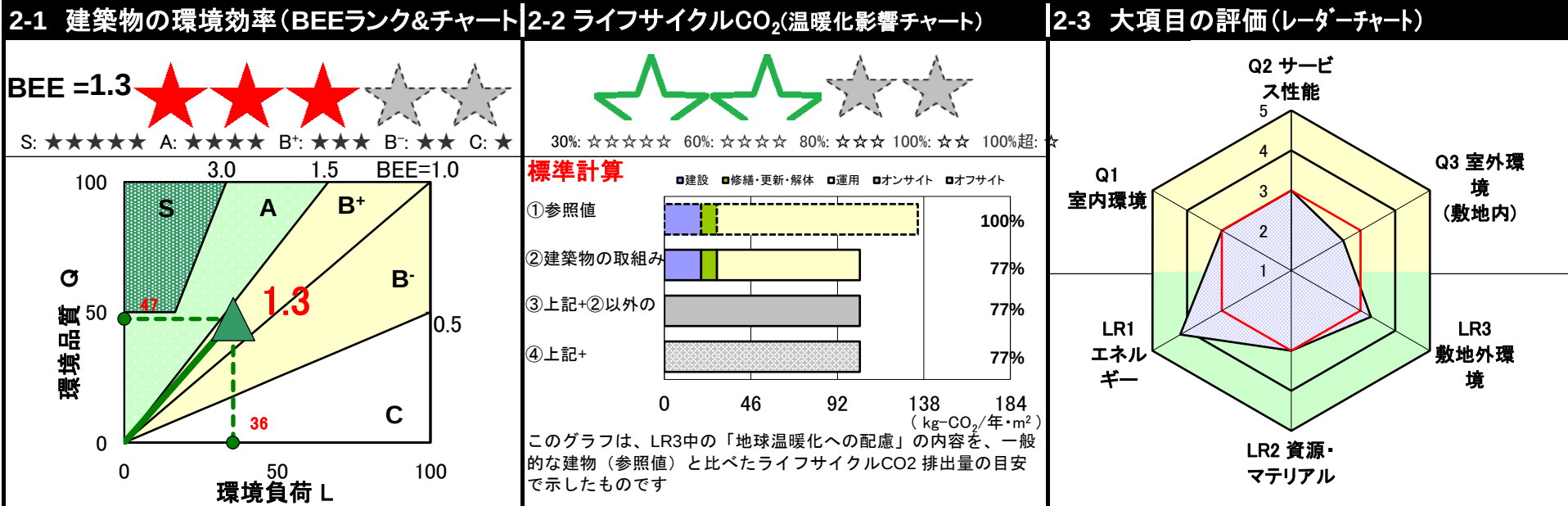
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]-建築(新築)

■ 評価結果 ■

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)九品寺2丁目マンション	階数	地上10F		
建設地	熊本市中央区九品寺2丁目4番39、	構造	RC造		
用途地域	商業地域、近隣商業地域、第2種住	平均居住人員	86 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年7月4日		
敷地面積	1,160 m ²	作成者	(03896-23)今西良一		
建築面積	319 m ²	確認日	2019年7月8日		
延床面積	2,250 m ²	確認者	大和ハウス工業(株)熊本支社		



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

省エネルギーに努め、地球温暖化防止に配慮している。安全に配慮しながら、全体から細部にわたり汎用品を採用し無駄のない設計をしている。

Q1 室内環境

屋外の光を部屋の中に積極的に取り入れると共にバルコニーやカーテンによりまぶしさへの対策を行っている。化学汚染物質の最小化及び換気量を確保している。

Q2 サービス性能

耐用年数の永い材料を使用し、建物が長期間使用できるよう配慮している。節水器具を採用し、水資源の保護に努めている。

Q3 室外環境（敷地内）

周囲の建物に近い色彩により、景観を損ねないように配慮した。

LR1 エネルギー

LED照明器具を採用し省エネルギーを図っている。各住戸の採光と通風を確保する配慮をしている。

LR2 資源・マテリアル

分別が容易な施工方法の採用により、資源の大量消費を防ぐようにしている。

LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO2を削減し、地球温暖化防止を図っている。駐車・駐輪場を確保し、周辺の交通渋滞緩和に努めている。

その他

特になし

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)九品寺2丁目マンション

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93.7	0.40	37.48
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	屋光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	屋光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				68.7	0.20	13.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				66.7	0.20	13.34
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.1	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)九品寺2丁目マンション■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.8	
Q1 室内環境					0.40		-	3.0	
1 音環境				-	0.15	3.1	1.00	3.1	
1.1 室内騒音レベル				-	-	3.0	0.50		
1.2 遮音				-	-	3.3	0.50		
1 開口部遮音性能				-	-	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		D数の予測式より、Dr=50以上を確保		-	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		置き床ユニット: Lr=45		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	2.0	0.20		
1.3 吸音				-	-	-	-		
2 温熱環境				-	0.35	2.4	1.00	2.4	
2.1 室温制御				-	-	2.7	0.50		
1 室温				-	-	2.0	0.63		
2 外皮性能		断熱性能等級4		-	-	4.0	0.38		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御		除湿機能を有し、結露防止対策が取られている。		-	-	4.0	0.20		
2.3 空調方式				-	-	1.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25	2.9	1.00	2.9	
3.1 昼光利用				3.0	1.00	1.9	0.50		
1 昼光率				-	-	2.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	1.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	1.00	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				-	-	4.0	0.50		
1 昼光制御		カーテン+庇によりグレアを制御		-	-	4.0	1.00		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				-	-	-	-		
4 空気質環境				4.0	0.25	4.0	1.00	4.0	
4.1 発生源対策				4.0	1.00	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気				-	-	4.0	0.38		
1 換気量		基準法の1.4倍以上の換気量を確保		-	-	5.0	0.33		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が床面積の1/8以上を確保		-	-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性				2.4	0.40	3.2	1.00	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	4.0	0.60		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		各住戸で100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能		-	-	4.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40		
1 広さ感・景観				-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		使用量上位3種のうち、2種以上にB以上を使用、Eの使用なし		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水の危険なし、CATVの導入		4.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				2.8	0.30	2.9	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			2.9m≦基準階高:2.96m<3.0m	-	-	2.8	0.50	
1	階高のゆとり	-		-	4.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ	-		-	1.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				2.8	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			品確法 断熱等級:等級4	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm]: 0.78 高効率照明器具の採用	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	
集合住宅の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護				3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			躯体と仕上げ材が容易に分別可能+再利用できるユニット部材	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=1の発泡断熱材を採用	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率:77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	行政指導はないが雨水流出対策を行っている	4.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	